

# Actions アクションズ

若手医師活動報告

## HOPPIE 活動報告 ～産科救急シミュレーションコース ALSO/BLSO を全道に広げたい～

北海道周産期医療救急支援の会 (HOPPIE) 会長  
北海道社会事業協会小樽病院産婦人科  
くろだ たかふみ  
黒田 敬史

### 【周産期医療・救急シミュレーションコース ALSO/BLSOとは】

皆さんは、チーム医療のあり方について体系的に学んだことがあるでしょうか。産婦人科医の私がチーム医療を学ぶことができた場所、それがALSO/BLSOです。

ALSO (Advanced Life Support in Obstetrics) は、主に医師や助産師など産科医療従事者が、分娩施設における妊娠中や分娩時の急変に効果的に対処できるよう技能を習得するための教育コースです。そしてBLSO (Basic Life Support in Obstetrics) は、主に救急隊員が自宅や救急車内などの病院前で遭遇する妊産婦への救急対応を学ぶ教育コースとなっています。2008年よりNPO法人周産期医療支援機構 (OPPIC) が活動権限を有しており、国内での受講者数はALSO: 11,108名、BLSO: 3,846名 (2022年3月本部報告) となっています。

ALSO、BLSOともeラーニングで講義動画を履修し実技演習に臨みます。実技で徹底して行うのが産科救急シミュレーションです。参加者グループでチームとなり、分娩用ファントムを用いた症例シナリオ演習を通じて、繰り返し異常分娩や妊産婦救命対応を学びます。他にもALSOでは、吸引分娩や肩甲難産、そして今は臨床で経験することが少ない骨盤位の分娩も学びます。

北海道では産婦人科医師や助産師が大学医局を問わず受講しており、また、専門医取得前の医師も多く受講しています。不安を抱える若手医師た



HOPPIEは北海道内に勤務する産婦人科医、助産師、救急救命士で構成されている。左：齊藤良玄副会長、中央：松宮寛子クラウドファンディングリーダー、右：黒田。マスコットのホッピー君は金井麻子副会長画。

ちの支えになれているのならこれほど嬉しいことはありません。またBLSOでは新生児蘇生法や、実際に救急車を借りて母体搬送中の車内分娩を想定した演習も行います。産婦人科医としても、病院勤務だけでは知ることのできない救急現場の実情を共有できる貴重な機会となっています。

### 【広い北海道の安全なお産のために】

北海道には現在179の市町村がありますが、分娩施設がある市町村は26ほどしかなく、北空知と南檜山には現在分娩施設がありません。遠方から分娩施設まで、1時間以上かけて移動される妊産婦さんもおり、中には救急車で移動される場合も少なくありません。

日本では施設外分娩、いわゆる病院や助産院以外の場所で出産した、ないしは生まれてしまったというケースはどのくらいあるかご存じでしょうか。2016年から2020年までの5年間で、総出生数162,372人に対して、施設外分娩数は339人、実に1,000人に2.1人が施設外分娩と報告されています (2016-2020年 厚生労働省人口動態統計、出生届合算)。北海道ではどうかというと、かなり地域格差がみられておりますが、全国平均程度のところもあれば1,000人に4人以上という地域もあります。

救急車中での対応も含めたトレーニングを行うBLSO、妊娠中、分娩時から産後の緊急対応まで、より専門的な知識・技術を学ぶALSOは、周産期医療の包括的な知識・シミュレーション実技研修として、最適なものだと考えています。日本は、世界でも群を抜いて周産期死亡率が低くなっていますが、それはひとえに妊娠分娩に関わるスタッフ、周産期医療体制の強化とともに、我が子の安全を願い速やかに妊婦検診を受診してくれる地域の皆様のおかげに他なりません。チーム医療は、病院の中だけで完結するものではありません。病院、救急隊、地域と連携しあうことで、真に安全な医療を提供することが可能だと考えています。

図1 2020年1-12月の人口動態調査（厚生労働省調査）より



【HOPPIEの結成】

2009年に手稲溪仁会病院で開催されて以降、北海道では年1～3回の頻度でALSO/BLSOコースが開催されてきました。当初はインストラクターの多くを道外からの招聘に依存していましたが、有志が全国のコースで講師経験を積み、年々、道内メンバーがインストラクターとして活躍する道内ALSOやBLSOの割合も増えました。それでも開催費用の課題は常に深刻で、限られた施設や地域で定期開催することは難しく、毎年続けてきたALSOの道内開催が2018年に一時途絶えてしまいました。

コース再開の決意を胸に2019年、有志無形であった北海道ALSO/BLSO講師メンバーを基盤に任意団体「北海道周産期医療救急支援の会」を立ち上げました。英語名略称は「HOPPIE」、何とも喉越しのよい名前です。札幌市行政、また北海道・札幌市・小樽市などの医師会・産婦人科医会からも広くご理解をいただき、HOPPIEは現在『さっぽろ連携中枢都市圏事業予算』の受け皿団体となり、行政施策の一環として札幌市においてALSO/BLSOプロバイダーコースを開催することができます。また旭川医大では寄附講座を設立し、2019年よりALSOの定期開催を実現させています（図2）。

【クラウドファンディングに挑戦】

期間に限りある札幌市行政施策事業でのコースを終えた後も、全道各地の受講ニーズを賄えるようALSO/BLSOの定期開催を実現させることが現在の課題です。そこでHOPPIEでは、2023年1月19日から2月28日までの期間でクラウドファンディング（寄附サイト）を設立しました。ALSO/BLSOの道内定期開催を、まだ見ぬ母子の救命につなげられればと思っています。

詳細は以下ホームページをご覧ください。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

HOPPIEクラウドファンディング

プロジェクトページURL:

<https://readyfor.jp/projects/HOPPIE2023>

HOPPIE公式ホームページ:

<http://www.hoppie.jp/>



図2 北海道内のALSO/BLSO開催図

